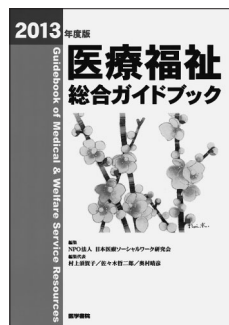


さまざまな患者・家族のケースマネジメントへの実践書 『医療福祉総合ガイドブック 2013 年度版』

NPO 法人 日本医療ソーシャルワーク研究会 編

村上須賀子, 佐々木哲二郎, 奥村晴彦 編集代表

評者: 宇都宮 宏子 在宅ケア移行支援研究所 宇都宮宏子オフィス



● A4 頁 308 2013 年 定価: 本体 3,300 円 + 税 [ISBN978-4-260-01770-1] 医学書院刊

私は、病院から生活の場へ患者さんを帰したいと考え、訪問看護の現場から大学病院に移り、「退院調整看護師」として、退院支援・退院調整に取り組んだ。私が訪問看護をしていた時代は介護保険制度が施行される前で、行政の高齢福祉課のケースワーカーや、ヘルパー事業所、特別養護老人ホームのデイサービスや短期入所担当の相談員たち、多くの社会福祉士の仲間に支えられ、対象者や、家族の抱える暮らし、経済問題、虐待の問題等と一緒にかわって来た。

1992 年から、私が訪問看護を実践していた京都の行政区では、特に「福祉・医療・保健の実務者会議」を当初から開催し、困難事例のケース検討も行ってきた。そこで中心になって会を牽引していたのが行政の社会福祉士だった。その経験から、退院調整部門では医療ソーシャルワーカー (MSW) と退院調整看護師が協働して取り組むことが効果的であると考え、病院に戻ってから退院調整部門の仕組みを作ってきた。

効果的な退院調整の鍵となる職種だが、多くの医療機関は、MSW が 1 人あるいは 2 人くらいで対応していることが多く、ロールモデルの少ない環境で、働きながら知識を深め、相談支援の経験をこなし、業務マネジメントをすることも求められている。大学卒業後、病院に就職した時点で、病院の中の唯一の福祉職として、MSW に期待されることが多い中、孤軍奮闘している。ただ、私

が全国の医療機関でアドバイザーとして活動したり、研修を行ったりする中で、「介護保険のケアマネジャーはいるが、ケースマネジメントができる人がいない」と感じることは多い。病気や障害と遭遇するのは、医療機関である。患者のみならず、家族や支える人たちも含め、生涯にわたり、ケースマネジメントができる MSW に成長していただきたい。そのためにも、図や表による説明が多く、理解しやすくまとめられた本書を MSW1 年目の教科書として活用してほしい。

I 章「社会保障のしくみ」では大枠を理解でき、各種サービスの窓口も紹介されている。II 章以降は、「医療サービス」「生活費としごと」「高齢者サービス」「障害児・者サービス」「難病」「母子 (ひとり親)・乳幼児・児童のために」「権利の擁護」と分野を分け、東日本大震災後からは、「自然災害等にあわれた人のために」という章も加え、制度の説明、情報、利用方法がまとめられている。表紙の見返し部分の「ライフステージからみた社会保障」では、誕生から高齢者までのライフステージに沿って利用できる制度がわかりやすく紹介されている。

MSW がいない医療機関で退院調整にかかわる看護師にも、制度や窓口等の理解、参考になる項目が多い書籍である。